

大澤清輝先生と岡山

山下泰正 (国立天文台名誉教授)

元 東京大学東京天文台長 大澤清輝先生は昨年 (2005) 12 月 21 日逝去された。大澤先生はわが国の天体物理的観測を開拓されたパイオニアの一人であり、多方面の活躍をされた。特に岡山の 188 センチ望遠鏡計画には最初から参加され、74 インチ反射望遠鏡建設委員会委員としてその建設に努力された。そして 1960 年完成の暁には岡山天体物理観測所長として望遠鏡の試験、性能評価、実質的共同利用といわれた望遠鏡の運用、観測所の運営などに献身的な努力を払われた。

私が大澤先生に初めてお目にかかったのは 1956 年頃アメリカから帰ってこられて、ヤーキス天文台で研究された恒星スペクトルの分類の話をお聞きしたときだと思う。日本でもそのうちこういうスペクトルが撮れるようになるという希望に満ちた時代だった。わが国で光電測光の技術を開拓して根づかせたのも大澤先生である。先生は大学卒業後、工学部で当時最先端のエレクトロニクスを勉強されたそうである。三鷹構内の今はもうなくなった卯酉儀ドームの 30 センチ望遠鏡に光電測光器を取り付けて観測しておられた。岡山が完成する前の話である。

私が直接ご薫陶を受けたのは岡山に関係するようになってからである。一々書けないが、一つしかない望遠鏡の成果を最大にするよう、観測計画のこと、新しい観測手段の導入、新しい観測装置の開発に尽くされた。1965 年頃欧米諸国で 4 メートル級望遠鏡計画がスタートし、わが国でも次期望遠鏡の構想が始まった。私たちも大澤先生を中心に望遠鏡光学の勉強を始めた。当時の日本は産業振興のため国産品優先の時代だったから、三鷹キャンパスに鏡の研磨工場を建てる構想をもたれたが、完成後は施設が遊休化するとの事務方の判断でそれ以上の進展はなかった。次期望遠鏡計画



略歴

- 1917 年 3 月 27 日生
- 1939 年 3 月 東京帝国大学理学部天文学科卒
- 1941 年 4 月 東京大学大学院退学
- 1941 年 5 月 東京帝国大学助手兼東京天文台技手理学部勤務
- 1945 年 10 月 東京天文台技師
- 1953-1956 年 アメリカ合衆国へ出張
- 1956 年 4 月 東京大学教授 (東京天文台)
- 1960 年 10 月 東京大学東京天文台岡山天体物理観測所長
- 1973 年 1 月 東京大学東京天文台長
- 1977 年 4 月 東京大学を定年退官
- 1977 年 5 月 東京大学名誉教授
- 1977 年 4 月 千葉大学教授 (教養部)
- 1982 年 4 月 同上 定年退官
- 1982 年 11 月 紫綬褒章受章
- 1988 年 11 月 勲二等瑞宝章
- 1967-1969 年 日本天文学会副理事長
- 2005 年 12 月 21 日 逝去 (88 歳)

はハワイのすばる望遠鏡で実現した。

ご指導いただいた岡山天体物理観測所の関係者を代表して心から感謝の意を表しご冥福をお祈りする次第である。